



看護ケア支援センター

2019年4月から新設された部署です。

患者様の退院後の生活を考えて看護ができる取り組みをはじめています。生活行動回復看護技術（NICD）を取り入れ始めました。

患者のケア

清潔ケア

廃用症候群患者（寝たきり患者）つukらない

誤嚥性肺炎患者を減らす

廃用症候群患者
をつくらない
(寝たきりにさ
せない)

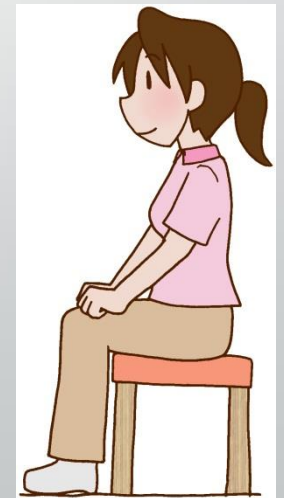
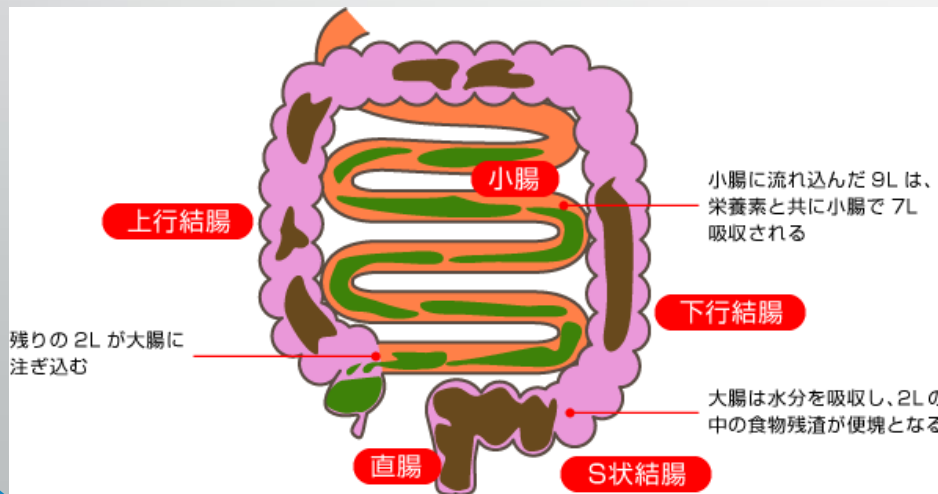
急性期病棟は治療中心となるため、
廃用症候群になりやすい

PT・OT STが介入されていない患者
に対して、看護師が介入していく。

看護師には、患者が生活できるため
に、援助していく役割がある⇒NICD

なぜ、早期離床がいいのか？

- 臥床と立位とでは、重力のかかり方が違う。
- 抗重力により ↓↓
- 脊柱起立筋を動かすことにより、姿勢制御機能が活性化。
- 臥床が続くと排便コントロールができにくい



NICD

(Nursing to
Independence for
Consciousness
Disturbance Disuse
Syndrome)

生活行動回復看護技術



対象:
原因疾患問わず、意識障害、廃用症候群を有する人



目的:
意識障害や廃用症候群からの自立



自立とは:他者の手を借りながら、自己管理を含む自ら生きていくための行動をとる医療からの脱却、自らの力で生きる



看護:
患者の可能性（潜在）を引き出す支援

誤嚥性肺炎の患者に対して

- モアブラシを使用して口腔ケアの徹底
- 食べれる口を作れるようにする
- 嚥下をするための筋肉づくり

最後に…

フロントランナー 編集者・白石正明さんの ケアの可能性広げるキラーパスより

- 「ケアって、心とからだ、人間関係、生の営み全体のプロセスにかかわるものです。あいまいで微妙で、言葉にされていないことも多い。だから逆に広々と自由で、いろんな方向へ企画が広がっていった」
- ベッドサイドに立つ人たちというのは、電車内で急病人が出たら、迷いなく手を差し伸べられる。駆けつけて必死に働く。
- ケアの人たちって、全然けち臭くないんです。圧倒的な贈与の世界に生きている。贈与というと一方的に与えているように聞こえますが、逆にたくさんの何かをもらっているという感覚も、同時に持っている。謙虚なんです。そういう人間の大きさに、やられました